

木田市長の

どろんどろんと コミュニケーション



日本を取り巻く気になる情勢

Vol.130

不易流行とは松尾芭蕉が言った言葉ですが、いつまでも変わらないもの、世の中の動きに応じて変化していくものという意味だそうです。それにして最近では変化が激しいと感じます。

トランプ大統領の当選はこれまでの政治の流れを大きく変えてしまうものでした。あれだけ多くの問題ありと思われていたトランプ氏の言動が、もしかしたら計算されつくされたものだったかもしれないと考えると、彼の能力は底知れないと言えなくもありません。ただ、彼の能力がそれほどでもなく、言いたいことを言っているだけなら、大統領としての寿命は短いものになる可能性もあります。変わらないと思っていた日

米の関係も、トランプ大統領の出現によつて先が読めなくなってきました。安倍首相が訪米し、ゴルフとディナーで、よその国がうらやましているほどのモチベーションを受けました。安倍首相は良くやっているといえるのでしょうか、トランプ大統領の普段の発言と、会談後の記者会見の時の発言が大きく違うのが気になります。株価なども心配して下がり、安心して上がるというようなことを繰り返しています。

私が一番関心を寄せているのは、突拍子もないように見えるトランプ氏の提案が思わぬ高率でアメリカの国民に支持されているということだと思います。これも計算されているのでしょうか。実際には、国民

の意識が変化してきていて、今でもアメリカは世界一豊かな国であると私たちは思っているのに、アメリカ人の多くが社会の格差によって不満が募ってきているのでしょうか。

我が国の近所である北朝鮮でも大きな変化が起こるかもしれません。金正恩氏が自らの叔父に続いて兄まで粛清したとされるニュースが流れました。このようなことがいつまでも続くとは思えません。

三世代目の金政権ですが、金正恩氏は年も若く、スイス留学の経験もあります。父や祖父とは違って改革開放を成し遂げてくれるのではと期待していました。予想に反し、どうもそうではなさそうです。拉致被害者の帰国も厳しいものになることが懸念されます。あまり突っ走りすぎると、何かが起こると思うのですが、具体的なことは言えません。私の身にだって何が起こるかわかりませんから。

アメリカとの仲の良い関係は不易として、いつまでも続いてほしい。北朝鮮のほうは何らかの事情で、流行として変わってほしい。そして、待っている家族らが元気なうちに拉致された人々が帰ってほしいものだと思います。



Vol.156

あれから6年

2011年3月11日東日本大震災が発生。学校は、卒業を間近に控え、慌ただしい毎日を迎えていた。突然の報道と、次々に放送される映像に目を覆ったのを覚えている。今年の新成人には、その影響で、中学校で修学旅行の日程変更や行く先変更を経験した人たちが含まれていた。穏やかな成人式とは対照的にあの当時から思い出されてやまない。

災害が起き、救出活動や復興活動を行う際に、被災者に対する人権侵害や、差別、尊厳が守られない事態が発生することが指摘されている。被災者の中でも、社会的弱者に置かれている人々が援助を受けにくい、人権侵害を被る可能性は、より深刻である。災害時の備えとして、避難

経路の確認や食料の準備はもちろん大切であるが、どんな人にどんな支援が必要なのか、そして、どこに「人権」に関わる課題があるのかを日頃から意識していくことが大切である。そのために、防災マニュアルに、社会的弱者の声を反映した取り組みを位置づけるとともに、地域社会における日々の住民同士の支え合い、助け合い、見守りを基本とした地域のネットワークづくりが必要となってくる。

また、この大震災は原発事故の被災地福島への差別という、新たな人権問題を引き起こした。福島から避難した子どもへの入園拒否やタクシーの乗車拒否、いじめ問題など、デマを信じたりして行動したことでも著しく相手の心を傷つけた。このことは、事実を正しく知らず、間違った考えをすり込まれ広がる、まさに差別の歴史が作り出す構造である。差別する側も差別される側も正しく知ること、気付くことが問題解決の第一歩となる。人権問題は人が解決していかねばならない。あれから6年を迎え、改めて思う。